

甲10号証

令和3年 12月16日 教育スポーツ委員会

◆宇根本茂委員 では、質問させてもらいます。

私は、一般質問で学校の今後の在り方ということで教育長から御答弁いただいております。その中で、義務教育学校、小中一貫教育、小中連携教育、そういうたった答弁をいただきました。ちょっとこの辺のところをもう少し、委員会ですので具体的にどういったものかを御説明いただきたいと思います。

◎学校経営企画課長（三浦敏忠） それでは、義務教育学校、それから小中一貫教育校、小中連携教育校がどういうものかという御質問であったかというふうに思います。

まず、義務教育学校でございますが、学校教育法の改正により平成28年度から新設をされたものとなっております。

どのようなものかと申しますと、修業年限は9年間、前期と後期を基本といたしますが、今でいう小学校と中学校の学齢に達する児童・生徒が学ぶ学校であるというふうに捉えております。

組織としては一つとして運営され、一人の校長の下、一つの教職員組織が置かれ、9年間の学校教育目標を設定し、9年間の系統性を確保した教育課程を編成、実施をしていく学校であります。小・中段階の教員が目指す子供像、一つの教育目標を共有し、9年間を通して系統的な教育を実施する学校となります。

続きまして、小中一貫教育校でございますが、先ほどの義務教育学校とは異なりまして、組織上は独立した小学校と中学校が一貫した教育を行う形態の学校です。組織上、別々の学校ですから、それぞれの学校に校長と教職員組織がございます。

ただし、小学校、中学校ともに教員が目指すべき子供像を共有、すなわち教育目標を共有する、その上で9年間を通して教育課程を編成し、系統的な教育を目指していく学校になります。

それから、小中連携教育校でございますが、小学校と中学校の教員が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育活動を行う学校ということでございますが、従来からの小と中、組織は別でございますが、小中連携を実施している小・中学校のイメージをイメージしていただければというふうに思っております。

以上でございます。

○委員長（山根信行） 宇根本委員。

◆宇根本茂委員 この三つの方向性って、ちょっと一般質問でしたから、あまり具体的に私も考えなかつたんですけど、よくよく後で考えてみると、この三つの方向のどれかをこれから検討するということでしょうか、ほかのやり方も含めてということなんでしょうか、ちょっとその辺をお聞かせください。

○委員長（山根信行） 学校経営企画課長。

◎学校経営企画課長（三浦敏忠） 今検討しているものはこの三つ、それ以外にもあるかという御質問でございました。

先ほど、義務教育学校、それから小中一貫教育校、それから小中連携教育校について説明いたしましたけども、今現在も尾道市におきましては小中連携を積極的に推進をしております。小学校と中学校の教員が互いに情報交換等をしながら教育活動を行っていくという活動は、今現在も行っております。その上で、学校の形態としては、先ほど申し上げました小中連携教育校を含め、小中一貫教育校、義務教育学校、この三つの中で検討していくというふうに考えております。

○委員長（山根信行） 宇根本委員。

◆宇根本茂委員 今の中でいくと、この3校についてということで教育長も御答弁いただいたので、今回ですね。私は尾道全体でということを聞こうと思ったんですけど、お答えのほうが3校となりましたので、そこに絞っていくと、単純に考えれば、3校でいえば久保小学校、久保中学校は今おっしゃることが全て当てはまるなど、ど

の方向でもいいのかなと。でも、土堂小学校、長江小学校となると、長江中学校ですよね、これは最初に御説明いただいた二つは当てはまるんですが、最後の連携となると、土堂小学校の特色を生かす連携なのか、長江小学校との特徴を生かす連携なのか、ちょっとこの辺ところが少し私自身が理解できなかったので、矛盾でもないんでしょうけど、となると、土堂小学校、長江小学校を考えるとこの小中連携教育っていうのは、今後は難しくなるのでしょうか。ちょっとその辺のところをもう少し分かりやすく御説明ください。

○委員長（山根信行） 学校経営企画課長。

○学校経営企画課長（三浦敏忠） 今、土堂小学校、長江小学校、それから長江中学校を含めて、小学校が2校ある場合の小中連携教育についての御質問だったと思いますけども、今現在におきましても土堂小学校、長江小学校、それから長江中学校については、積極的に小中連携を実施しながら教育活動を進めておるところでございます。それぞれの土堂小学校の学校のよさ、それから長江小学校の学校のよさ、そういうものを中学校に進みましてもしっかりと生かしていくということでやっておりますので、小学校が二つということでございますが、小中連携教育ということは実施できるというふうに捉えております。

○委員長（山根信行） 宇根本委員。

◆宇根本茂委員 ということは、今後も土堂小学校単独、長江小学校単独ということも視野に入れてるというか、まだ余地はあるということで理解しといてよろしいんでしょうか。

○委員長（山根信行） 学校教育部長。

○学校教育部長（小柳哲雄） この三つの小学校の方向性につきましては、これまで答弁させていただいているのは、この3小学校に2中学校も加えてどのような学校が望ましいのかということと、あとは山波小学校も久保中学校ですから、当然配慮をしていかなければいけないというふうに答弁させていただいております。

その中で、やはりこれまで平成23年度の12月、再編計画のほうを教育委員会として出させていただきましたが、その中にやはり子供たちにとってよりよい教育環境、それは何なのかなっていうことで、やはり複式学級は解消しなければいけないだろう、それから子供たちにとってはクラス替えのある複数学級が望ましいだろうということで、これまで因島、瀬戸田地域や北部地域、地域の方、保護者の方に御理解をいただきながら進めてきた経緯がございます。

そういうことから考えますと、小規模の学校が単独で残るということは、なかなかやっぱりこの状況の中で考えにくい、やっぱり統廃合も含めた中で検討させていただいているというふうに御理解していただきたいというふうに思っております。

◆宇根本茂委員 まだ検討中ということですので、あまり深くは質問しませんけど、ということはもう単独で土堂小学校が4年後にあの場所に戻る、長江小学校が元の場所に戻るとか、久保小学校がそのまま戻るとかということは、視野にというか検討にも、考え方をもう考えていくというふうに私たちもそっちへかじ取りをしていかないといけないということで理解すればよろしいでしょうか。

○学校教育部長（小柳哲雄） 今、宇根本委員おっしゃられたように、今、教育委員会のほうでは、土砂法の関係とか耐震の関係も含めまして、そういったものを考えてきますと、現地に戻るということはほぼもう考えにくのではないか、新しい学校の姿を、これまでの答弁の中では長江中学校、久保中学校の敷地を生かしながらどのような学校ができるのか、子供たちや保護者の方、また住民の方に夢や希望を持って通っていただけるような学校を今考えているところでございます。

◆宇根本茂委員 そのとおりなんです。私たちも反対というか、方向性については意見はたくさんあります。特に、私たちは旧市内で育った人間ですし、特に私は日比崎とか土堂とか関係がある中で育ってきました。

だけど、今も部長さんおっしゃるように、本当に私たちが今何をしなきゃいけないかと言ったら、未来ある子

供たちのためにいち早い決断をすべきときにもう来てるということなんです。さっきの学校給食もそうかも分かりません。もう長い間、皆さんが待ってるんです、どうするか。だけど、外部から一生懸命意見は出るんですけど、なかなかその答えが返ってこない。

今、私が本当に気になるのは、方向性自体が示されてない。そうすると、本当に未来ある子供たちが宙ぶらりんになって、一般質問でも言ったかも分かりませんが、自分たちが、我慢でもないですけど、ここにいることで未来の後輩が本当に幸せな学校ができて、すごいいいものになって、自分たちが卒業した後も訪ねて行って、私たちはこうだったんだよって言って自慢に思うものができるというのを与えてあげることが一番で、だけど皆さんに聞くと、最初のほうで挨拶運動してるとか中学校と一緒に連携して、これは私たちがいいと思っているのではなく子供たちが順応しようと思ってるんだと僕は思うんです。ここに与えられた自分たちの条件で、子供たちがこれを自分たちも理解しようと、この中で楽しもうということじゃないかと思うんです。ということは、しっかりと方向を決めていただいて、るべき姿、その決めていただいたことに対して、今部長がおっしゃるように住民とか保護者とかという打合せがどんどん進められていったらというふうに思います。

ただし、以前にも言いましたように、どこの小学校もそうだと思いますけど、その小学校の、この尾道をつくり上げてきた過去の歴史というものは、絶対ここを無視をしてほしくないところだというふうに思います。土堂小学校の尾道に対する役目、そこで育った人たちの思い、地域、長江小学校もそうです、久保小学校もそうです。それをちゃんと考えられた上での統合を、もうしていただきたい。

これまで、人が減るから、複式じゃいけないからということで、各地域の住民とか卒業生皆苦渋の選択で納得してきたと思うんです。だけど、今先ほどのほかの分でもありましたように、将来の子供たちの数を見て考えるとありましたけど、将来の数って誰が決めるんかっていう政策です。どこにまちをつくるか、どんなまちをつくるかで、そこに住む人、日比崎小学校も高須小学校も見てください、団地をつくるからじゃないですか、ですよね。ということは、政策がいかに学校をつくるか、学校がいかに政策を変えるか、それが今こそ問われているんじゃないかなというふうに思います。

だから、今複式じゃいけないからこうしよう、斜面がこうだからということは当然のことです。だけど、今こそこの歴史を重んじる尾道市の学校の在り方というのは十分に考えて、その考え方があるからこそ住民は理解してくれるんじゃないかなというふうに反対に思います。

それともう一つ言えば、今の政策で言えば、西御所とか、この間市長答弁でもありましたように、駅前開発はこれからどんどん進むわけです、ですね。まちに住んでくれっていう、当分の間そうなっていくわけじゃないですか。でも、学校がなければ家は建たないじゃないですか、ですよね。皆さん、家を建てるってどうするかって、近くに伝統ある何とか小学校、中学校があるからとか、大型スーパーがあるからっていうのは、どうですか、ほかの皆さん、自分の子供が何キロも離れた学校しかないところに、土地が安いからって家を建てますか、ですよね。

ということは、今駅前開発をしようと、まさしく去年、おととし、西御所にも県が予算をつけて調べてるじゃないですか。マンションを建てよう、どういうふうにまちづくりしようと。だったら、確実に人は増えます。そのときに、学校がなければどうするのか。また日比崎、栗原、吉和小学校へ入れるんですか。どこも校舎はありません。栗原小学校は以前の半分になりましたから十分校舎はありますけど。だから、そういうことがないからこそ地域の方が反対をするんじゃないかなというふうにも考えます。その辺のところをもう少し御答弁いただきたいのと。

もう一つは、学区制ですけど、これはちょっと課長にも相談したんですが、いつも立ち話では答えが返ってこないので、昔、日比崎小学校に私が通ってたときは、国際ホテルです、今の、のところまでは土堂小学校だったんです。それが、この間聞いたら、祇園橋から西は日比崎小学校に行くってことになるみたいで、これはいつ変わったんでしょうか。それとも私の勘違いなんでしょうか。よろしくお願ひします。この2点、お願ひします。

○委員長（山根信行） 学校教育部長。

○学校教育部長（小柳哲雄） 新しい学校を統廃合によってつくっていく場合っていうのは、非常に教育委員会としてもいろんなことを想定したりとか、将来の子供たちのことを考えながら、また地域や保護者の方に御理解いただける教育ができるようになるというのを、本当に十分検討した上で提案させていただきたいというふうに思っております。

その中で、やはりそれぞれの地域にある学校、多分明治の初めからある学校もありますし、明治の途中からという学校もあります。そういったやっぱり歴史、それから地域の伝統とか、そういったものもしっかりと踏まえた上で、教育内容のほうは考えていいきたいというふうに思いますし、それが未来につながるということを考えていきたいというふうに思っています。

それから、日比崎小学校の校区についてですけども、これはこれまでも調査をしてきたんですけども、ちょっと十分な、本当に十分な根拠がまだ見つかっていない部分もあります。しかし、昭和28年に日比崎小学校が開校をしています。このときに学区の変更を行っているということで、もともとの多分土堂小学校が今の新浜の一丁目、ここだったと思うんですけども、祇園橋から西側っていうのが日比崎小学校に編入されています。

それから、新浜の一丁目、これはもう吉和の部分が一部あったんだと思いますけども、その一部も日比崎小学校になっているといったような経緯ではないかということで、今調査をしているんですけども、ちょっと正確な根拠というところまでは至ってませんが、いろんな文献とか当時の便利とか、そういったものを見る中で、今そういった部分ではないかというところまで調査はできております。

○委員長（山根信行） 宇根本委員。

◆宇根本茂委員 この件にしても、ちょっと日比崎小学校は私も問題があるんで、土堂小学校って話をしましょう。土堂小学校が、その国際ホテルの新浜一丁目ですね。あの辺は、住所によって学校を分けてますから、手崎といえば何ぼ吉浦のほうでも吉和小学校へ行くんです。入り組んでるんです、あの辺は学区が。それは住所でしようがないとしても、確実に私の記憶では2号線の海側、南側は全部土堂小学校に行ってました。三軒家はどちらへ行ってもいい時代でしたから半分半分でした、三軒家の中では。土堂小学校が近いですから、5分もかかれば行けるんでという中でしたけど。

じゃあ何が言いたいかと言うと、祇園橋から西側のあそこは大マンション群じゃないですか、ですよね。これをどう考えるかっていうと、土堂小学校が人数が少ない、複式学級じゃないっていうのは、もうその考え方一つで全く変わってくるわけです。だから、そういったところも、さっき言いましたように歴史をどう見ていくか、歴史がどうだったかということを踏まえないと全く違う。それで西御所も開拓する、マンションを建てますよ、当分の間は新浜一丁目、あの辺の海岸通りは子供たちは減りません、当分は。マンションですから一世代で終わるかも分かりませんけど。だけど、そうすると根拠がなくなるって話なんです。土堂小学校を統合するという。

だから、やっぱりそういうところはきちっとして、あ、そうだから、まちづくりがこうだから土堂小学校を残しましょうね、長江小学校を小中一貫校にしましうね、久保小学校は義務教育学校にしましうね、これが一番分かりやすい話です。そのときに、山波小学校は久保中学校に行ったときにどうあるべきか、これが一番分かりやすいというふうに思うんです。もっと複雑には考えられておると思いますので、まずこれをしっかりと、ただその通学路のことだけでも、だって昔からそこにいらっしゃる方はそれが基本になってて、何でかってその方々はそれで矛盾に思うわけですから、そういったことを考えていていただきたいというふうに思います。

それで、ちょっとなかなかお答えをいただけないんですが、これからはどういうふうになるか、時期をって言っても大変難しいでしょうけど、ちょっと当面計画されてるタイムスケジュールがあれば教えていただきたい。住民説明会があるのか、何かのアンケートを取るのか、今年度中に何をするのか、そういったところでもし今検討されるとタイムスケジュールがあれば教えてください。

○委員長（山根信行） 学校教育部長。

○学校教育部長（小柳哲雄） まず、通学区域についてでございますが、これについては、例えば今の土堂小学

校と日比崎小学校の関係で言いますと、昭和 28 年以降その制度が変わりまして、日比崎小学校で学び卒業されているという方がかなりの人数もういらっしゃるわけです。

今考えているのは、やはり今の中学校区を基本として、これまで学校再編等を考えてまいりましたので、現状ではこの学区の変更、遡って昭和 28 年以前に戻るというようなことは、今のところは考えておりません。

それから、今後のスケジュールということありますけども、今のところで言いますと、今考えている案です、学校の在り方とか教育内容について案を今検討しております。これが一定程度まとまりまして、皆様方にお示しできるようになればお示しさせていただきたいんですが、今時期についてはここで明確に申し上げることはできません。

○委員長（山根信行） 宇根本委員。

◆宇根本茂委員 閉めていますけど、昭和 28 年、私が一生懸命行ったときって、私は昭和 37 年生まれなんで、そのときにはまだ土堂小学校に行ってましたよって話なんで、昭和 28 年からそこだって話では絶対ないと思います。そこを調べていただきたいというふうに思います。

それと、今のお話でいくとちょっと怖いのが、ある程度ベースができるから発表しますよっていうふうに聞こえるんですけど、何遍も言っているようにキャッチボールしてくださいねって話をお願いしたいんです。こういった案があるけど、例えば選択肢が三つあって、こういった案があるけど、アンケートを取って皆さんどう思われますかといったことも、もうここまで来たらそれをする必要があるんじゃないかなというふうに思います。急に出てもアレルギーを起こすだけですので、そういうことをしていっていただきて、決してあの場所、私も土堂小学校がイエローブーンにあるって言われたら心配ですし、何かあったときって言われたら、やっぱり斜面にある学校ですから、それをわざわざ帰すかどうかっていうのはいろんなことを思います。

だけど、そういうことを、その考え方を整理させていただくためにもちゃんとキャッチボールをしていただきて、そして理解をしていただくということをしていただきたい。それで、土堂小学校とか長江小学校は、これはもう皆さんの責任で、学校選択で P T A というのは 3 分の 2 以上がもうほかから来てる方ですから、やっぱり地域住民とか卒業生とか、P T A は無視してもいいって話じゃないですよ、ちゃんと我が子が行ってるんですから。その話もしていただきたいですが、しっかりとその辺のところも、ある地域では P T A が判子を押したから俺たちは諦めたんだよっていう地域の方も今までいらっしゃいました。そういういた轍を、決してもう一度踏まないようにしていただきたいというふうに思うんですが、さっきアンケートかどうか分かりませんけど、そういうことを取り組んでいただけるかどうかだけ、最後にお聞かせください。

○委員長（山根信行） 学校教育部長。

◎学校教育部長（小柳哲雄） 今後のスケジュールの部分で、保護者の方や地域の方にどのような段階を踏まえて理解をしていただけるかということでございますが、教育委員会として提案はさせていただくのを検討しているということですが、そういう段階を踏まえて、どのような手順で皆様方に、保護者、住民、それから議員の皆様とかいろんな市民の方、いろんな方にどういう段階でどういう手順を踏んで提示していくのが一番合意形成に近づいていけるのかっていうようなことも踏まえて、今検討はさせていただいております。

なかなかこれは、順番というのは非常に難しいことだというふうに思っておりますし、適切にといいますか、一番ふさわしい流れでというふうに今検討はさせていただいております。

○委員長（山根信行） 岡野長寿委員。

◆岡野長寿委員 これまで土堂小学校の問題については白紙ですよということでしたが、多少色がついてきたんですね、統合前提で。

それで、皆さんは何を基準にその学校配置計画を検討すべきなんでしょうか。私は、やはり保護者や生徒、それを支える地域の声、これを外に置いた議論というのはあり得ないと思ってるんです。それで、土堂小学校について改めて確認すれば、圧倒的多数が現地存続でしょ。もうここを抜きにした議論をすると迷走しますよ。

私は、9月議会で学区の変更も含めて、今複式学級は駄目よという話もありましたから、一定の人数を確保す

る可能性を含めて、学区の変更も含めて検討をしますかと言ったら検討しないと強く強圧的に言われましたよね。私は、これ撤回してもらいたい。議員がそういった可能性も含めて検討してくれと言ってるのに、白紙ですと言ひながら検討しないと。

それはともかく、それは置いといて、今子供たちは、市議会も4年間は仮設の校舎に行くことを認めました。ただ、これからどうなるんだろうというような気持ちの中で、早くやはり方向性を出さなきゃいけないということは皆さんも私も同じ認識なんすけども、例えば現時点での圧倒的多数な声を基に考えれば、今仮設に行ってるわけですから。そして、あなた方は学区の変更をしないと断定しながら、じゃあそれに代わる案があるのかと、説得的な。ということを今再三聞いても、はっきりしたものが出でこないでしょう。はっきりしたものが出でこないので、人の意見を検討にも値しないというふうな言い方をしたことは大変失礼だと思っています。

今かなりのお金をかけて、仮設もそうですがバス通学も含めて、今仮設に移ってるんですから、圧倒的多数の声を基にやろうと思ったら現地の大規模改修はできるわけです、物理的にも。それから、財政的にもそちらのほうが安価であるということは専門家もきっちりはじき出して、訴訟じゃないけども監査請求まで出てるわけでしょう、そういった数字も示して。そういう検討はされたのかと聞いても、されてないんでしょうけども。

それで、先ほどの議論の中で、じゃああなた方は今義務教育学校だと小中一貫校の検討と言われたんですが、これについてちょっと聞いてみましょう。

これは、そういった実例、この近くでそういった義務教育学校とか小中一貫校がうまくいってあるところがあるんでしょうかということと、一般的なその利点、長所、短所もあれば教えてください。

それから、尾道の中心部は狭いですよね。ここへそういった大規模な学校をつくる用地が、学校敷地とグラウンド、あるのかということも問題になります。

それからもう一点、今コロナ禍の中で密になるのはできるだけ避けなきゃいけません。だから、各地の統廃合もあんまり今は進んでいません。分散型が推奨されている面もあるんです。そういった面も含めて検討されてるのかというのもちょっと不安です。まだまだ聞くことはあるんですが、当面そのぐらいのところで義務教育学校なんか、皆さん考えられてる一般的な長所も含めて教えてください。

○委員長（山根信行） 学校経営企画課長。

○学校経営企画課長（三浦敏忠） ただいま3点御質問があったかと思います。

まず、義務教育学校のメリット、デメリット、それから近隣の学校がどうかという御質問でございますが、一般的にメリットでございますけども、9年間を通じた一貫したカリキュラムが可能でございますので、そこに通う児童・生徒の状況でありますとか、そういったものを見ながら独自性の高いカリキュラムを編成することが可能になるということ、それから小学校と中学校が別ではなくて一つの組織ということでございますので、教科指導、それから生徒指導等において、全教職員が共通認識を持って取組を進めることができますとか、いわゆる中1ギャップの解消につながるといったこと、それから教科担任制が比較的容易にできやすい、専門性の高い授業を行うことができるといったようなことが上げられます。

それから、近隣の義務教育学校でございますが、義務教育学校は県内に5校、それから小中一貫教育校でいきますと1校でございます。

その中で、近隣の学校の様子を幾つかお聞きをいたしました。府中市のほうで府中学園、それから府中学園を含めて2校ほど府中市のほうには設置しておりますけども、聞き取りをした限りでは、非常に義務教育学校を設置したことに対して効果的な教育活動ができていると。それから、このことに対して、逆に言いますとマイナス点で、一時保護者の方々から、なかなか小学校、中学校、御自身が受けてきた教育とは違うということでどうなんだろうかという、例えば修学旅行が小学校段階でないありますとか、小学校の卒業式がないとかという御意見はありましたが、何年か経過するごとにそうした御意見はなくなって、基本的には子供たちの成長につながっているのではないかというような御意見をいただいたと聞いております。

それから2番目の、用地についてでございますが、今例えば義務教育学校等になりますと大規模な学校になる

のかということもあります、基本的には現在の久保小学校、長江小学校、土堂小学校、中学校を考えますと、久保中学校、長江中学校が含んで検討されるということになりますが、どのような形態をとりましても、いわゆる大規模校にまではならないだろうというふうには考えております。土地のことにつきましては、今の学校形態も含めながら今後引き続き検討をしていくことでございます。

それから3点目でございますけども、再編の結果児童を1か所に集める、そういったときの人数でありますとかそういったことでございますけども、先ほど学校教育部長の答弁の繰り返しになるかもしれません、再編計画を平成23年に策定をいたしました。その中で、1学年複数学級化の推進を掲げております。

3小学校に関わりましては、今の推計ですけども、久保小学校、それから土堂小学校、長江小学校、この3小学校の児童を合わせましても、令和7年4月の見込みで全校児童が307名の推計でございまして、1学級当たり20名から30名程度の規模になろうかと考えられます。そのことから、1か所に非常にたくさんの児童が集中するということであるとは考えておりません。ただし、今後も児童・生徒数の推移というものは常に変わってまいりますので、そういったものに注視しながら、まずは子供たちにとってよりよい教育環境を実現していくためにはどのような在り方がふさわしいかということを検討してまいりたいと考えております。

○委員長（山根信行） 岡野長寿委員。

◆岡野長寿委員 事前に質問項目を言つとりましたから、丁寧に答えていただいてありがとうございます。

府中学園なんかは、かなり敷地も広いですよね、私も知っていますけども。今、長江中学校、久保中学校の敷地を前提に考えてるんかなあというイメージを持ちましたが、ここは今仮設でも行ってますから、私が尾道に来て感じることは小学校、中学校、それぞれグラウンドが非常に狭いなど、敷地も含めて。これが瀬戸田とか因島とか周辺部と比べれば、それは当然だと言われれば当然なんですが、今あなた方が考えてる小中連携校のようことで、今長江中学校、久保中学校、それぞれつくるとすると、かなり窮屈な感じがイメージとしてはあるんですが、それは一定のグラウンドとか、小学校と中学校が一緒にやるわけですから調整もなかなか、府中学園みたいなところだったらしいですよ、そりや広いところがあれば。なかなか私も四国のほうを見てきたことがあります、小中一貫校を。野球をするにしても小学生と中学生が一遍にできません、なかなか。週3日ごとにせえよとか、そういうことでグラウンドなんかはとても狭くなるというふうな気もするんですが、その辺は大丈夫ですか。

○委員長（山根信行） 学校経営企画課長。

○学校経営企画課長（三浦敏忠） 今の府中学園、非常に広大な敷地で大きな校舎ということは私どもも承知しておりますけども、ちょっと府中学園の児童数、生徒数について詳細を今把握できておりませんので子細を申し上げられませんけども、学校規模がやはり違いがあるのではないかというふうには考えております。

ただ、それは申しましても、今委員御指摘のようにグラウンドの使用でありますとか体育館利用といったことで、多くの学年が一つの施設を利用するということになりますので、なかなかその調整でありますとか使用の方法については現状よりは制約が若干出てくるのかなと思っております。ただ、その使い方でありますとかそういったことも含めながら、今後どういう形がふさわしいのかという検討になっていくのだというふうに考えております。

○委員長（山根信行） 岡野長寿委員。

◆岡野長寿委員 あまり密になるなあというイメージが、ちょっと私はマイナス面がイメージされますけど、それは置いときましょう。

もう一つの論点は、今の土堂小学校の校舎、敷地、給食施設もあります。あれが今ストップしてる、時間が止まってるわけです。それで、皆さんはこれから構想を考えるときに、市長部局と尾道の活性化とかまちづくりということについての議論はしてるんですか。土堂のあの箇所は駅の隣、尾道といえば、私は船で因島から尾道港に来てましたけども、駅から商店街、昨日ロープウェーの話もありましたが、この周辺というのは尾道の中の尾道でしょう。その中にある学校敷地なんです。しかも名前の通った小学校なんです。それが止まってる。4年

間は止まても仕方がないかなという議決でしたけども、このまま止め続けていいのかということです。商店街の活性化というのは、これから尾道のかなりのウエートを置く問題ですよね。市長も今4期目ですか、あと一年とちょっとしたら任期が終わるわけです。このまま時を止めたまま、やり放しにすることは考えられません。どう思っておられるか知りませんが。その次もやるつもりなんかね。

それはともかくとして、商店街の活性化ということを考えると、あそこをやっぱり尾道の中心にある学校として生き返らせなきゃいけない、これまでの伝統を生かす意味でも。これは単独で残せとか、あるいは統合すべきだとか、私は学区制の調整はあると思ってるんだけども、それは抜きにして、**まちづくりという観点からそういう市長部局との話し合いをしてるのか、その重要性について教育委員会としてはどういうふうに考えているのか。**

私は大変なマイナスが生まれると思います。

○委員長（山根信行） 学校教育部長。

○学校教育部長（小柳哲雄） まちづくりの視点からという御質問だったと思います。

まちづくりと学校というのは、どこの部分が結びついて結びついてないというのは、地域にある学校ですから非常に密接には絡んでいると思います。

ただ、私たちが一番重視して考えるのは、やっぱり将来の子供のために教育環境を整えるということで、ある程度の学級規模でありますとか教育内容を子供たちに保障していく上で、やっぱり力をつけていくというところを一番に考えております。

ただ、こういった統廃合等の案をつくった場合、当然、市長部局のほうとも連携をさせていただく中身になってくると思いますから、これまでもさせてきていただいておりますし、これからも、今後もそういったことは十分に連携を図りながらさせていただきたいというふうに思っております。

○委員長（山根信行） 岡野長寿委員。

◆岡野長寿委員 私は、一般的なまちづくりと学校の関係という論点もありますが、尾道の中のやはり活性化のポイントとなる地域ですから、しかもそれを残してほしい、伝統もあると、私はいろいろ言いましたが、市民の声、土地が狭い、ここらがね、早期解決をしなきゃいけないということを総合的に考えると、やはり今の地域住民の、児童・生徒や保護者の思いを抜きにした案は、相当迷走するといいますか時間がかかる。その間に尾道が、商店街が疲弊化していきます。

教育委員会だけの責任ではなくて、私は最近、市長とも連携をしてやるんでしょ、教育は。ということもありますから、やはりこの学校施設を生かすことを前提に、そういう思いが強いわけですから、どなたに聞いても。しかも、今そういう校舎をいろいろ大規模改修する手も示されてるわけですから、そういうことも総合的に市民の声を入れて計画をつくらないと、もう宙に浮いたものになってしまうなという危惧を持ってますから。

そういう点では、やはりまだ白紙という段階でちょっと色もつき始めたんですが、今言った市民の声を基準に学校の配置を考える、まちづくりも含めてよく協議していただくという意見も、ですから学区制の調整も、これは頭からもうなしよというんじゃなくて考えていただきたいと。単独とか、そりゃ統合とかいろいろあるでしょう、そりゃあ。子供の人数の関係で。そういうような意見を持っていますので、市民の声を代弁するつもりで言わせてもらいましたので、ぜひそういう観点から検討をしてください。

終わります。